

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	衣料品専門店（総括）	・徐々に売上が上がってきている。リーマンショックの影響もかなり薄れ、景気が回復傾向にある。
		通信会社（営業担当）	・新商品が全て出揃う時期でもあり、販売価格に差も出始められると思われるため、販売台数が伸びてくる。
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕（店長）	・ゴルフの景品の受注や外商部門が活発になっており、先行きの売上は少し明るい見通しである。
		コンビニ（経営者）	・スイーツにヒット商品が出ており、コンビニのデザートに注目が集まり、他のデザートにより影響を与えている。売上は全体として上昇傾向にある。
		家電量販店（経営者）	・テレビの売上が全体の売上を大きく左右するが、3Dテレビはまだ数量としては低水準であり売上には貢献しない。省エネタイプのLEDテレビは期待が持てる。
		旅行代理店（従業員）	・中国のビザ発給基準の緩和で中国人などの観光客が増加する。
		旅行代理店（従業員）	・製造業や自動車関連小売業などの業績回復が、今後の福利厚生費や販促費などの戦略的MICE（インセンティブ旅行、展示会等）需要への活性化に期待が出来る。
		通信会社（営業担当）	・携帯電話の繁忙時期も終わり、新規契約に至る客は低迷しているが、例年に比べ機種変更の需要が増加傾向にある。
		美容室（経営者）	・地元の商工会議所が6月にプレミアム付き商品券を発行する予定であり、多少期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・特に増改築は前年比大幅な受注増加となり、エコポイントの浸透もあって、今後も安定した伸びが期待できる。これにつれて景気回復による心理的不安からの脱却がみられ、新築部門も期待できる。
変わらない	商店街（代表者）	・冷夏予想のため、好転は望めない。	
	商店街（代表者）	・このところ寒いほどの気候が続いており、このまま冷夏か、あるいは一転して猛暑となっても、今までの消費パターンが変わるとは思えない。	
	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・財布のひもの固い客の買い控え傾向が改善するとは、現状では考えられない。	
	百貨店（売場主任）	・前年は新型インフルエンザが大きく販売金額に影響を与えたが、現在、来客数は伸びているにもかかわらず、まだ客の消費意欲が高揚されていない。衣料品などは新たなスタイリングを取り入れるよりコーディネートで低単価の商品で済ませることが多くみられる。	
	百貨店（営業担当）	・今後も最低限度必要なものを十分吟味して購入する消費者の購買行動に変化はない。シーズン品、し好み、ぜいたく品は増加傾向の予測はあるが、大きな影響を与えるとは考えにくく、回復までには時間がかかる。	
	百貨店（営業担当）	・買い控えに対しての客の我慢が限界に近く、2～3か月先の夏物セール時期には来客が見込まれるものの、セールスタートの1～2週間前には、例年に増して買い控えが見込まれ厳しい状態となることが予想される。全体では、夏物の売上が上乘せできる要因はない。	
	百貨店（売場担当）	・収入増加が見込めず、売上増が期待できない。	
	スーパー（店長）	・客単価は、ここ2～3か月前年水準を維持しているが、今後上がる要素がない。夏の賞与の回答状況によっては、なお一層の節約傾向がみられるかもしれない。	
	スーパー（店長）	・景気を刺激する要因が不透明な状況は変わらない。中でも、子ども手当支給でどれだけ消費されるかが疑問である。エリア全体での消費活性化につながる期待感は薄く、前年と同様一時的で景気全体を押し上げる刺激剤になるとは思われない。	
	スーパー（店長）	・子ども手当の支給が始まるため、多少の景気回復につながると思われる。	
	スーパー（総務担当）	・売上高を維持するために競合店との価格競争は今後も続くが、消費が増加していないため今後も地区別に客数減少、客単価低下が発生する。	
	コンビニ（店長）	・3、4、5月だけみると横ばいが続き、特にゴールデンウィークは期待したほど売上も来客数も伸びなかった。6月は伸びる要素がないが、7、8月は天候次第だが良くなるであろう。今後下がることはないが、極端に上がることも考えられない。	

コンビニ（店舗管理）	・低価格商品への反応の高さが、現在の閉塞感を如実に表しているように感じる。	
衣料品専門店（経営者）	・客のニーズに応えられている店は売れ始めており、客への対応によって優劣が明確になっている。経営戦略的に大変難しい。	
衣料品専門店（経営者）	・簡便な生活を送ることが定着している。商売人としてはさびしい話だが、喜ぶべきことなのかも知れない。	
家電量販店（店長）	・夏の天候次第で大きく左右されるが、現状のまま販売量が上がっても、単価が低く推移しそうである。	
乗用車販売店（経営者）	・景気見通しがよくならない限り、また、実収入が増えない限り財布のひもは緩みそうにない。	
乗用車販売店（経営者）	・新型商品等の導入を予定しているのでしばらくは維持できる。	
乗用車販売店（経理担当）	・補助金の延長期間である9月までは比較的好調に推移していく。	
自動車備品販売店（従業員）	・集客は大きく変動しない予想だが、高単価商品は目玉になる商品群も無く依然として厳しい。	
住関連専門店（店長）	・現在の状態がかなり続いているなか、急激に変わるとは思えない。特に今の10～20代は物欲がないように感じる。このままでは今後の消費は少なくなっていく一方である。	
その他専門店〔酒〕（経営者）	・先行きが全く見えない状況が続いており、この状況に変化はない。	
その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・地場の生産メーカーでは受注が上がっているようだが、海外生産にシフトしているようで、身近なところに好影響がない。	
高級レストラン（スタッフ）	・料亭の6月は、法人の株主総会後の会食で潤うが、今年は会食をしない企業があり、単価も下がっており、地方の中小企業の厳しさに変わりはない。	
一般レストラン（スタッフ）	・口蹄疫の問題で牛肉・豚肉の相場が値上がりし始め、気温異常で秋の米の収穫にも不安が出ているなか、大手が原材料の囲い込みに動き始めており、原材料の値上げによる利益圧迫が懸念される。しかし、スーパーの肉や野菜が値上がりすると外食の方が得と感じる人もおり、来客数の傾向は変わらないと思われる。	
観光型旅館（スタッフ）	・予約保有は5月は前年同月比105%、6月は同120%と前年よりは状況は良いと言えるが、7月以降が同80～98%と先の予約が伸びてこない。5月後半で若干良くなっているが、安心できる状態ではない。前々年と比べれば4000～5000人少ない。	
都市型ホテル（スタッフ）	・宴会の受注状況、宿泊予約状況が低迷している。特に婚礼の受注状況が悪く、売上高は前年を下回る見込みである。	
都市型ホテル（スタッフ）	・企業関係の宴会予約は好調である。	
タクシー運転手	・働いている人の仕事が忙しくなり小遣いが増え、節約傾向が緩和しなければ、繁華街へも人出が戻らず、タクシー業界も低迷が続く。	
タクシー運転手	・無駄な経費を抑えるのが常になっており、会社関係、一般も同様の状況となっている。	
通信会社（職員）	・夏商戦本番に向けて、大きな前兆が見受けられない。	
通信会社（役員）	・ケーブルテレビ多チャンネル契約の県内普及率は40%を超え、全国平均が20%の約2倍となっており、今後伸びる余地には限界があるものと予想している。	
住宅販売会社（経営者）	・受注量の比較では現状と変わらないであろう。	
住宅販売会社（従業員）	・客の動きは増えていない。また、動いている客層は限定的であり、今後契約件数及び契約額共に増加するとは考えにくい。	
住宅販売会社（従業員）	・リフォーム工事の受注は増えていると思うが、新築工事の受注はさほど期待は持てない。	
やや悪くなる	スーパー（店長）	・パート社員を採用するにあたって、面接の段階で非正規社員では将来の不安を訴える人が多くなった。
	スナック（経営者）	・このまま中小企業や商店がよくない状況では期待ができない。
	観光型旅館（経営者）	・平日の集客が悪く、トータルすると例年よりも集客が低下している。
	テーマパーク（職員）	・円高により海外からの観光客にブレーキがかかる懸念があるものの、一般団体客や海外からの観光客は持ち直しの傾向にある。しかし、個人客は消費や所得が冷え込んでいるため、大きな回復が望めない。

		競輪場（職員） 住宅販売会社（従業員）	・昨年に比べ売上額が全体的に下がっている。 ・製造業の生産調整も落ち着き、企業の収益も改善しているが、売上高の伸びは期待できない。また収益改善が従業員まで感じられる状況には無い。個人の消費意欲はまだ弱い。
	悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・製造業などは景気が回復してきたと言われるが、中小企業ではまだその影響はない。また、官公庁の予算も前年よりは減少しそうで、まだまだ厳しい状況が続く。
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		繊維工業（経営者）	・ギリシャ財政危機にともなうユーロ安、円高による輸出関連の影響が懸念されるが、7～9月に向けての受注も想像以上に堅調に推移している。国内市場も安値一辺倒から少し変化が見られるのもありがたい。
		化学工業（総務担当） 電気機械器具製造業（経理担当）	・受注計画では増加する予定である。 ・価格競争、特にアジア諸国の製品と日本製品との価格競争が厳しく楽観できないものの、数量的には回復傾向が続くであろう。
		通信業（営業担当） 不動産業（経営者）	・企業の設備投資も徐々にではあるが、上向いている感がある。パソコンなどの通信設備の需要も出ている。 ・飲食関連では不動産取引の動きは不振であるものの、その他の法人、個人関連は少しずつ取引に動きが出ている。
	変わらない	食料品製造業（企画担当）	・夏から秋に向けての商談が始まっているが、提案価格帯や販売先の期待する価格も安価で、なおかつボリュームのあるおいしい食品の路線だけが際立っている。
		繊維工業（経営者）	・春から天候不順が続いており、衣料関係は先行き不安である。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・産業資材は、家電向けや車両向けは動きが見え出したが、主流である住宅市場は全く先が見えない状況が続いている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・鋼材の値上げ、為替の急変等、収益面での影響が強く懸念される。
		精密機械器具製造業（経営者）	・ここ2、3か月はほぼ同水準の生産が続く予定であるが、いくつかの商品については在庫調整が早まるかもしれない。
		金融業（融資担当）	・機械製造業において回復の兆しが見られるが、持続して回復するかどうか依然不透明であり、現状維持が続く。
		新聞販売店〔広告〕（従業員） 司法書士	・ここ数か月間、売上高で前年同月比100%前後で推移しており、この状態が続きそうだ。 ・マンションの売買はあるが、戸建てはほとんどない。また、個人住宅以外は動きがない。
	やや悪くなる	一般機械器具製造業（総務担当）	・対ドル、対ユーロとも円高傾向が強くなっており、海外からの引き合いが減速されると予想される。輸出が多い当社としては大変な状況になりつつある。
		税理士（所長）	・企業では受注量が増えているようだが、新たに人を雇用する状況にはなっていない。また、以前のような大幅減産のリスクもあるので、新たに人を雇う、給料を上げるといったことができず、激しい競争も続いている。個人消費が本格的に回復する見通しがなく、景気が長続きすることはない。
悪くなる	建設業（経営者）	・5月に老舗の建設会社が工事量の減少により自己破産申請したが、今後も新幹線負担金に県の公共事業予算が取られ、地元向けの一般公共事業が減る中で、経営破たんする建設会社が増えるであろう。	
	建設業（総務担当）	・異常な受注価格競争が続いており、状況はさらに悪化が見込まれる。	
	輸送業（配車担当）	・今後、急激に原油価格が安くなるとは思えず、ますます燃料費が上がる状況になっている。運送コスト増により利益を上げにくい状況がしばらく続く。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・周辺の企業の方々が、明るい話題を口にするようになった。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・労働者派遣法改正に備え派遣の利用が控えられており、最近パート採用が増えている状況である。派遣業界の復活には厳しいものがある。
		人材派遣会社（社員）	・製造業関連で求人増はうかがえるが、派遣業への規制強化により厳しさは今後も続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・従業員を求める企業の求人意欲が上がってこない。
職業安定所（職員）	・事業所訪問では、以前より仕事量が増加していると答える企業が増えているが、従業員を増加するまでには至らず、求人につながらない。		

	民間職業紹介機関（経営者）	・労働者派遣法改正の動きは、さらに企業の雇用意欲を削ぐものとなる。
やや悪くなる		
悪くなる	-	-